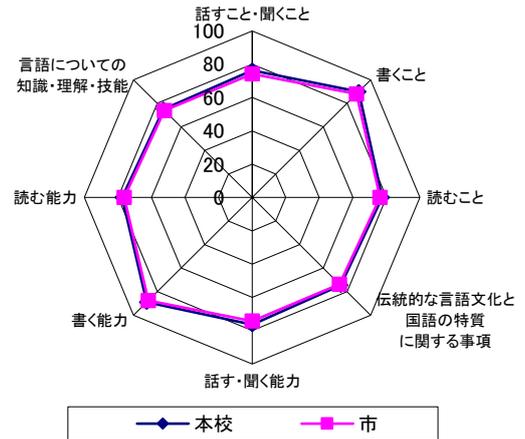


宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	76.3	74.2	68.8
	書くこと	89.9	88.0	73.8
	読むこと	77.5	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.6	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	76.3	74.2	68.8
	書く能力	88.9	87.5	73.8
	読む能力	77.5	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	74.9	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

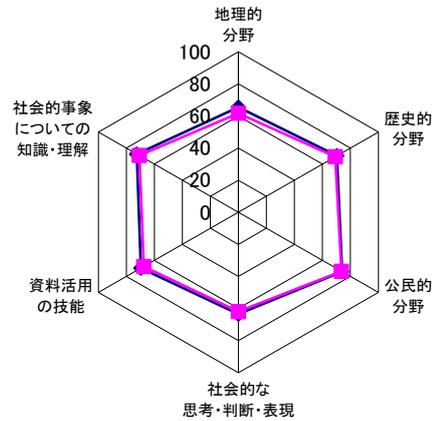
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、市の平均を2.1ポイント上回っている。</p> <p>○正確な聞き取りや話し方の工夫の問題は、市より8ポイント、5ポイント高く満足できる状況である。</p> <p>●司会者の工夫を読み取ったり、質問への的確な答えを求める問題で2, 3ポイントの落ち込みが見られた。</p>	<p>・普段の聞き取りテストにおいて、メモを取る習慣が付いている。</p> <p>・小さなグループの中での話し合い活動やビデオ等を利用した活動の中で、知識や技能を高めていきたい。</p>
書くこと	<p>○「書くこと」の平均正答率は、市の平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>○5問中4問の平均正答率が、2, 3ポイント上回っており、ほぼ満足できる。</p>	<p>・段落構成を意識せずに文章を書く傾向があるので、課題作文を書く指導の中で技能を高めていきたい。</p>
読むこと	<p>○「読むこと」の平均正答率は、市の平均を1.3ポイント上回っている。</p> <p>○この領域の問題中、内容、展開、人物像をとらえる点では満足できる。</p> <p>●要旨をとらえる問題では、市より3ポイント下回っており、今後の課題である。</p>	<p>・説明文においては、筆者の考えと事実を区別するとともに、構成や展開を意識しながら要旨をまとめる練習に取り組ませたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率は、市の平均を1ポイント上回っている。</p> <p>○歴史的仮名遣いや、古典の読み取りで市の平均より5ポイント、9ポイント上回るものもあった。</p> <p>●小学校既習漢字の書きで4問とも市の平均を1, 2ポイント下回った。</p>	<p>・漢字の書きの平均は80パーセントを超えているので、日頃の漢字の練習の足りない生徒に対し、習慣付けをさせるとともに、全体にも定期的に小テストを実施しながら力を付けさせていきたい。</p> <p>・古典の文章の読み取りに際して、注釈の活用や語彙を増やす指導を徹底していきたい。</p>

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.5	61.7	54.6
	歴史的分野	70.4	69.2	59.6
	公民的分野	74.1	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.4	61.9	51.9
	資料活用の技能	69.6	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	72.6	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



● 本校 ● 市

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

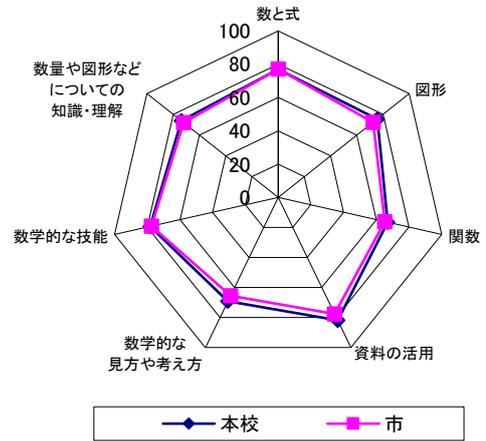
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○市の平均正答率を3.8ポイント上回った。 ○ヨーロッパ州の農業地域について、資料をもとに把握する問題では、市の平均正答率を10.3ポイントと大きく上回っている。 ●全体として市・全国ともに正答率を超えているものの、資料を活用しての記述問題のポイントが他分野に比べ低い。	・資料を読み取って考察し、記述で表現する活動を多く取り入れるよう工夫していきたい。
歴史的分野	○市の平均正答率を1.2ポイント上回った。 ○知識・理解についての正答率がおおむね高く、仮名文字に関する問題は市の平均正答率を4.2ポイント上回った。 ●縄文の遺跡・江戸の大名統制のポイントに見られるように、資料を読み取る能力が若干低い。	・資料を読み取って考察し、記述で表現する活動を多く取り入れるとともに、資料を読み取るために必要な基礎知識の定着を図れるよう工夫していきたい。
公民的分野	○市の平均正答率を0.5ポイント上回った。 ○知識・理解についての正答率がおおむね高く、フランス人権宣言の主な内容に関する問題は市の平均正答率を3.6ポイント上回った。 ●物事の採決の仕方や争点の決め手となる、公共の福祉、住民参加がより一層求められている地方自治に関する理解度が低い。	・基礎・基本の定着を図り、重要語句を記述できるようにさせる。また、日本の政治の仕組みなどに関して、新聞などを活用しながら取り組ませるとともに、図で理解できるように工夫していきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.0	77.1	71.0
	図形	75.5	72.4	59.3
	関数	67.0	65.2	51.0
	資料の活用	81.8	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	69.2	65.5	48.8
	数学的な技能	78.3	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	73.8	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

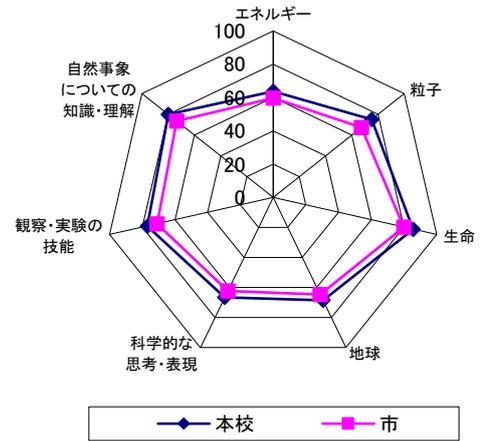
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「数と式」の平均正答率は、市と比較してほぼ同じである。式の計算や平方根などの基本的な力は身に付いている。 ●平方根の分母を有理化することは3.1ポイント、解の公式を用いて2次方程式を解く問題では6.2ポイント市平均を下回っている。	・授業の最初に行う計算テスト等を通して基礎的な力は身に付いているので継続していく。特に、有理化や解の公式などの問題を意識的に増やし、定着を図る。
図形	○「図形」の平均正答率は、市と比較して3.1ポイント上回っている。角の二等分線の作図の問題については6.2ポイント、三角形の合同証明問題は6.4ポイント市平均を上回っている。図形の定着度は高い。 ●内角から図形を推測する問題では市の平均をわずかに下回った。	・作図、証明ともに基礎力はついているので、さらに力を伸ばせるよう、様々な問題に触れさせるとともに、内角の和や外角の和などの問題も確実に解けるように、解く機会を増やしていく。
関数	○「関数」の平均正答率は、市と比較して1.8ポイント上回っている。特に、関数の活用の問題では8.8ポイント、2乗に比例する関数の活用問題も8.2ポイント市平均を上回り、活用の力も定着している。 ●反比例の式を表す問題では比例との勘違いが見られる。	・活用の力をさらに伸ばせるよう、思考力を使う問題を解くとともに、関数の式を求める問題などでは比例と反比例を明確にしながら問題を解かせ、定着を図る。
資料の活用	○「資料の活用」の平均正答率は、市と比較して1.7ポイント上回っている。すべての問いにおいて市平均を上回っている。この分野の基礎力はほぼ定着していると考えられる。 ●基礎力をもとに、発展的な問題についての思考力も深められるようにする。	・おおむね良好であるので、さらに力を伸ばせるように、実生活での資料の見方や、活用の仕方など、様々な問題に取り組みさせる。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	63.7	59.7	57.9
	粒子	75.2	67.4	59.8
	生命	85.6	79.9	73.5
	地球	68.5	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	66.6	62.3	56.3
	観察・実験の技能	77.0	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	79.9	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

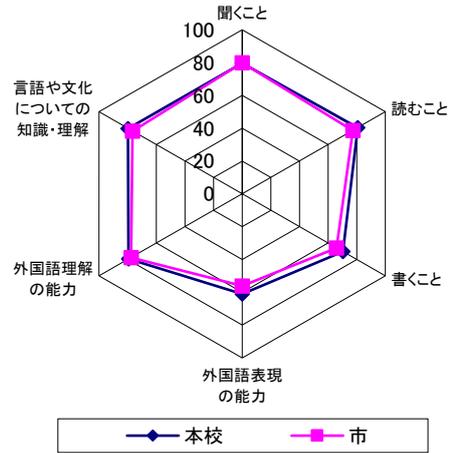
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○エネルギー単元の本校正答率は市の平均を4.0ポイント上回っている。 ●「磁力線によってコイルのまわりの鉄粉がつくる模様を考えることができる」では市の平均を1.1ポイント下回っていた。	・磁界の問題には、磁界や電流の性質の正しい知識と、実験による体験的な理解が求められる。実験を行いながら、磁界・電流の相互関係を意識付けを行う。
粒子	○粒子単元の本校正答率は市の平均を7.8ポイント上回っている。 ○特に「中和のしくみについて理解している」では市の平均を15.5ポイント上回っている。	・目に見えないものを扱うこの單元では、特に実験により得られるものが多い。引き続き、主体的に学ぶことができるように促していく。
生命	○生命単元の本校正答率は市の平均を5.7ポイント上回っている。 ○特に「消化のしくみについて理解している」では市の平均を8.2ポイント上回っている。	・分類が行われることの多い生命の單元では、一つ一つの知識のつながりを意識させて、今後も身に付けさせたい。
地球	○地球単元の本校正答率は市の平均を3.8ポイント上回っている。 ○特に「寒冷前線通過時の天気の変化を理解している」では市の平均を13.3ポイント上回っている。	・低気圧付近の風の吹き方についての理解には、比較的課題も見られた。ただ覚えさせるだけでなく、気圧や風が吹き込む原理について、正確な理解の促進を行う。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.6	79.9	75.7
	読むこと	80.8	77.3	72.8
	書くこと	70.3	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	61.0	56.1	58.8
	外国語理解の能力	79.3	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	79.7	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●「聞くこと」の校内正答率は、市の正答率を0.3ポイント下回っている。 ●リスニング問題では、単語の意味を聞き違える等基本的な問題を間違っている生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスニング問題を充実させ、聞かせる回数を増やす。特に、つながりのある発音の聞き取りや代名詞の指す内容に気を付けさせ、トレーニング回数を増やしていく。 ・日々の授業でのウォームアップや導入での英語を増やして、ALTとのチームティーチングをさらに充実させ、生徒が英語に触れる機会を多く設定する。 ・単語の発音や意味等、基礎基本の徹底を図っていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の校内正答率は、市の正答率を3.5ポイント上回っている。 ○長文の読み取りのスピーチの内容をふまえて感想を書く問題では市の正答率を10.8ポイント上回った。 ●さまざまな英文の問題を読み取る問題では市の正答率を0.1下回る問題が1問あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに基本文、単語、連語を繰り返し覚えさせ、多くの英文の語形・語法の理解を助けていく。 ・さまざまな英文の問題に慣れていく必要がある。長文も多方面に亘る教材を取り入れていき、今後もQ&AやT-Fテスト等を引き続き行う。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の校内正答率は、市の正答率を4.3ポイント上回っている。 ○書くことに関する問題はすべて市の正答率を上回っている。特に3文以上の英作文を書く問題では、市の正答率を9.3ポイント上回っている項目があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本文、単語、連語を繰り返し覚えさせ、英文を書く力の基礎を身に付けていく。 ・一つの話題についてのまとまりのある英文を書く力を引き続き付けていく。英文添削などを充実させる。

宇都宮市立宮の原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化	・ねらい提示と振り返りを行う。	・学習内容が明確で理解し易くなっている。
・学業指導の充実	・チャイム前着席や態度の指導を行う。	・落ち着いて学習に取り組んでいる。
・家庭学習の習慣化	・課題の提出を徹底させる。	・課題等の提出率は向上している。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・各教科の「領域別」と「観点別」では、ほとんどの部分で市の平均正答率を上回る結果であった。次年度においても同様の結果に繋げるには、今年度の取組を次年度も継続して実践していくことが重要である。また、各学年において定着度の低い学習内容を分析して把握し、弱点とならないよう早急に対応することも考慮していくことが必要である。